



©Yuki Asada

竹製うちわで夏を乗り切ろう！

今年も暑い夏がやってきた。外にいても室内にいてもとにかく暑い。クーラーをつけるにも、電気代が気になる…。そんな時に活躍するのが、日本の夏の風物詩、うちわだ。

日本の伝統工芸品として知られるうちわ。その生産地の一つが香川県。職人たちが魂を込め、一本一本、竹と和紙で手作りしている。

そして、この土地で長年にわたってはぐくまれた「丸亀うちわ」の技術が今、海を超えて、ラオスに新たな種をまいている。舞台は首都ビエンチャンから車で4時間、バンビエン郡の農村。朝から晩まで、人々は農業や漁業にせっせと汗を流している。そして乾期になると、近くに

生えている竹を使って竹細工に励む。すべては大切な家族を養うためだ。

香川県デザイン協会の出淵光一さんはこの技術に目を付けた。「竹の扱いに慣れている彼らなら、きっと素敵なうちわを作れるのではないかと。試しにワークショップをやると“おもしろい！”と大好評でした」と話す。

竹を扇型につなぎ合わせたら、次は和紙を貼る作業。表面にしわができないよう、集中力を高める時だ。「良いものを作りたいと自分たちでもデザインや道具などを工夫するようになりました。これからは楽しみです」と出淵さん。竹で作られたうちわであおぐと、ラオスからの涼しい風が吹き込んでくるようだ。



竹細工はお手のもの。先祖から受け継いできた技術を新たなものづくりに生かす

★竹製うちわを10人にプレゼント!→詳細は38ページへ

